

シラバス

2025年度版



鍼灸マッサージ東洋医療科 3年A組

学校法人 赤門宏志学院

仙台赤門医療専門学校

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	浦山 久嗣 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	東洋医学各論Ⅱ	曜日・時間	月曜日 9:00～

【授業概要・目標】

施術者として必要な東洋医学の基本概念、診察法および治療法の概要を理解する。
東洋医学の知識や技術を総合的に運用し、施術を適切かつ効果的に行う能力を修得する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	ガイダンス、東洋医学の特徴
2	診察と治療の原理原則
3	カルテ(治療記録)の記載法
4	POMRとSAOP
5	取穴法と選穴法
6	要穴の種類
7	要穴の運用
8	刺鍼手技の種類
9	刺鍼法の種類
10	施灸法の種類
11	経絡学総論
12	舌診
13	問診
14	脈診
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	脈診演習
2	治療演習
3	病因病機学概論
4	弁証学Ⅰ(八綱弁証)
5	弁証学Ⅱ(気血津液弁証・病邪弁証)
6	弁証学Ⅲ(臓腑弁証①肝・心・肺)
7	弁証学Ⅳ(臓腑弁証②腎・脾・六腑)
8	弁証学Ⅴ(外感温熱弁証)
9	鍼灸医学史Ⅰ(医療と人類)
10	鍼灸医学史Ⅱ(古代・中世中国)
11	鍼灸医学史Ⅲ(古代・中世日本)
12	鍼灸医学史Ⅳ(近世中国)
13	鍼灸医学史Ⅴ(近世日本)
14	鍼灸医学史Ⅵ(近現代)
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	期末試験の成績を主とし、普段の授業態度等を加味して評価する。
授業の進め方	指定した教科書を主とし、不足分は配布資料を以て補う。
注意 (学生に望むこと)	予め授業分の内容は教科書に目を通しておくこと。 授業後は配布資料を確認し復習すること。
テキスト・参考書	『新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)』(南江堂2022年刊) 『これからの「脈診」の話をしよう!!』(たにぐち書店2018年刊)

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	神成 有己 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	東洋医学臨床論Ⅰ	曜日・時間	月曜日 13:00～

【授業概要・目標】

西洋医学的な視点と東洋医学的視点の両方から症状や病態を把握できるようになる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	疼痛①
2	疼痛②と頭痛①
3	頭痛②と顔面痛
4	関節痛と頸肩腕痛①
5	頸肩腕痛②と上肢痛①
6	上肢痛②と肩関節痛①
7	肩関節痛②と疲労と倦怠感①
8	疲労と倦怠感②と発熱と冷え①
9	発熱と冷え②
10	発熱と冷え③とのぼせ
11	浮腫と掻痒感①
12	掻痒感②
13	問題演習①
14	問題演習②
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	臨床に向けた要点確認
2	臨床に向けた要点確認
3	臨床に向けた要点確認
4	臨床に向けた要点確認
5	臨床に向けた要点確認
6	臨床に向けた要点確認
7	臨床に向けた要点確認
8	臨床に向けた要点確認
9	臨床に向けた要点確認
10	臨床に向けた要点確認
11	臨床に向けた要点確認
12	国家試験対策
13	国家試験対策
14	国家試験対策
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験の結果をもってその学期の評価とする。
授業の進め方	前期はテキストを中心に後期は問題演習なども含めて進めていく。
注意 (学生に望むこと)	東洋医学と西洋医学両方の視点から病態を把握できるよう復習をしっかりとするようにお願いします。
テキスト・参考書	教科書を中心に進めていきます

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	國分 壮一 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年A組
科目名	鍼灸臨床実技 I	曜日・時間	火曜日 9:00～

【授業概要・目標】 ①症例を元に問診～的確な検査法の実施～病態把握～カルテのまとめ方 ②症例の復習、局所への鍼灸実技 問診・検査・実技・カルテ作成全てにおいて臨床できちんと使えることを目標とする。			
--	--	--	--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション (授業内容説明など)
2	頸部症例①
3	頸部症例①-2
4	頸部症例②
5	頸部症例②-2
6	肩部症例①
7	肩部症例①-2
8	肩部症例②
9	肩部症例②-2
10	上肢症例①
11	上肢症例①-2
12	上肢症例②
13	上肢症例②-2
14	前期試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	腰部症例①
2	腰部症例①-2
3	腰部症例②
4	腰部症例②-2
5	下肢症例①
6	下肢症例①-2
7	下肢症例②
8	下肢症例②-2
9	膝症例①
10	膝症例①-2
11	膝症例②
12	膝症例②-2
13	まとめ
14	後期試験
15	評価点検

評価方法	実技試験、口頭発表、症例のまとめ
授業の進め方	授業概要の通り、①を実施した翌週は②を実施する。 自分に関わりのある病気、症例について調査、発表も授業内で行う予定。
注意 (学生に望むこと)	作成したカルテは月曜日までに提出すること。
テキスト・参考書	鍼灸臨床『問診・診察ハンドブック』(医道の日本社) 図解『鍼灸療法技術ガイド I・II』(文光堂)

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	浦山 久嗣 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年A組
科目名	鍼灸臨床実技Ⅲ	曜日・時間	火曜日 10:40～

【授業概要・目標】

施術者として必要な施術に関する知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。

はりきゅう治療の意義と役割、施術者の心構え、衛生管理、施術室の管理、リスク管理など。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	実技のオリエンテーション (用具と使用方法)
2	はりきゅう実技復習Ⅰ(刺鍼)
3	はりきゅう実技復習Ⅱ(施灸)
4	頭面部に対する取穴法と実技
5	頸肩部に対する取穴法と実技
6	上肢に対する取穴法と実技
7	胸腹部に対する取穴法と実技
8	背腰部に対する取穴法と実技
9	下肢に対する取穴法と実技Ⅰ
10	下肢に対する取穴法と実技Ⅱ
11	東洋医学的選穴法
12	実技練習Ⅰ
13	実技練習Ⅱ
14	実技練習Ⅲ
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	診断と治療計画
2	頭面部疾患の選穴法と実技
3	頸肩部に疾患の選穴法と実技
4	上肢疾患の選穴法と実技
5	胸腹部疾患の選穴法と実技
6	背腰部疾患の選穴法と実技
7	下肢疾患の選穴法と実技Ⅰ
8	下肢疾患の選穴法と実技Ⅱ
9	全身疾患の選穴法と実技
10	特殊鍼法Ⅰ(用具)
11	特殊鍼法Ⅱ(刺鍼手技)
12	特殊灸法(用具と手法)
13	はりきゅう応用治療実技Ⅰ
14	はりきゅう応用治療実技Ⅱ
15	評価点検

評価方法	定期試験により評価する。
授業の進め方	総合臨床治療技術の習得および認定実技試験の合格を目指す。
注意 (学生に望むこと)	施術者・患者役となるので自己健康管理に留意すること。 実技演習に当たっては必ずマスクを着用すること。
テキスト・参考書	『はりきゅう実技＜基礎編＞第2版』(公益社団法人東洋療法学校協会編;教科書執筆小委員会著;医道の日本社2014年刊;3,410円(税込)) 『新版 東洋医学臨床論(はりきゅう篇)』(公益社団法人東洋療法学校協会編集;南江堂2022年刊;7,370円(税込))

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	川嶋 睦子 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	東洋医学臨床論Ⅱ	曜日・時間	火曜日 13:00～

【授業概要・目標】

臓腑と関連する症候(肝系統・心系統・脾系統・肺系統・腎系統)についての適応・不適応の鑑別。また西洋医学的・東洋医学的な考え方の病態・症状から、各疾患の鑑別方法について学習し、臨床に活かせる知識を習得する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	P181 第2節 臓腑と関連する症候 2-1 肝系統 I. 眼精疲労
2	P187 第2節 臓腑と関連する症候 2-1 肝系統 II. 気分障害
3	P198 第2節 臓腑と関連する症候 2-1 肝系統 III. めまい
4	P208 第2節 臓腑と関連する症候 2-2 心系統 I. 動悸・息切れ
5	P214 第2節 臓腑と関連する症候 2-2 心系統 II. 血圧異常
6	P222 第2節 臓腑と関連する症候 2-2 心系統 III. 睡眠障害
7	P232 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統 I. 食欲不振
8	P232 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統 II. 肥満
9	P246 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統 III. やせ(るい瘦)
10	P252 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統 IV. 悪心・嘔吐
11	P259 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統 V. 便秘
12	P267 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統 VI. 下痢
13	P275 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統 VII. 歯痛
14	P282 第2節 臓腑と関連する症候 2-4 肺系統 I. 咳嗽と喀痰
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	P304 第2節 臓腑と関連する症候 2-4 肺系統 III. 鼻閉・鼻汁
2	P314 第2節 臓腑と関連する症候 2-5 腎系統 I. 脱毛症
3	P323 第2節 臓腑と関連する症候 2-5 腎系統 II. 耳鳴り・難聴
4	P335 第2節 臓腑と関連する症候 2-5 腎系統 III. 排尿障害
5	P346 第2節 臓腑と関連する症候 2-5 腎系統 IV. ED(勃起障害)
6	P439 第5節 女性特有の症状 I. 概説 P445 第5節 女性特有の症状 II. 月経異常
7	P459 第5節 女性特有の症状 III. 性器出血
8	P467 第5節 女性特有の症状 IV. 帯下
9	P474 第5節 女性特有の症状 V. 不妊症
10	P482 第5節 女性特有の症状 VI. つわり
11	P489 第5節 女性特有の症状 VII. 骨盤位(逆子)
12	P495 第5節 女性特有の症状 VIII. 乳汁分泌不全
13	P474 第5節 小児特有の症候 I. 概説 II. 疳の虫
14	P513 第5節 小児特有の症候 II. 疳の虫 III夜尿症
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	筆記試験(80%)、小テスト(10%)、授業意欲(10%)から総合的に評価する。
授業の進め方	各項目の適応・不適応、西洋医学的・東洋医学的な考え方の病態・症状・鑑別方法を理解し、鍼灸臨床に応用できるようにする。
注意 (学生に望むこと)	配布プリント・課題の予習をして授業に臨んでください。
テキスト・参考書	新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)。履修内容順に講義を進行する。 ただし学生の能力に応じて変更有り。

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	萱場 公雄	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	関係法規	曜日・時間	火曜日 14:40～

【授業概要・目標】

保健医療福祉制度の中におけるあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師の位置付けや職業倫理について理解を深める。生涯を通じて、健康や障害の状況に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基礎的な能力を養うことを目標とする。

医療法、医師法等の医事法の体系の中での「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」、社会保障法、社会福祉関係法について学ぶ。

＜前期＞		＜後期＞	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	関係法規入門(1) 関係法規とは、関係法規と医事法(学)	1	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律(1)法律の沿革、法制定の目的、指定試験(登録)機関の指定
2	(2)法の概念、法の領域、法の存在形式	2	(2)指定試験(登録)機関が試験(登録)事務を行うときの規定の適用
3	(3)法秩序の構成原理、法の解釈	3	(3)免許、免許の取得と取消、名簿、登録事務、学校・養成施設、試験
4	医療法(1)医療法の概要、医療法の目的、医療提供の理念、医療関係者の責務	4	(4)施術者の業務、守秘義務等
5	(2)医療提供施設の種類と定義、類似名称の使用制限	5	(5)施術所に関する規制、広告の制限、免許取消と業務停止
6	(3)医療提供施設の要件、法定人員、構造設備の基準等	6	(6)罰則、両罰規定
7	(4)医療提供施設の管理監督等、医業等の広告の制限	7	(7)医業類似行為とその規制、医業類似行為に関する判例
8	(5)医療計画、医療法人、地域医療連携推進法人、医療審議会、地域保健法	8	その他の関係法規(1)-予防衛生法規、薬事関係法規-感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、予防接種法、医薬品医療機器等法、薬剤師法
9	医師法(1) 医師法の概要、資格法、臨床研修	9	(2)-一保健衛生法規-健康増進法、母子保健法、母体保護法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
10	(2)業務法、医業と医業類似行為	10	(3)-社会保障関係法規-健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険法
11	(3)義務法、罰則、秘密保持義務	11	(4)-社会福祉関係法規-社会福祉法、生活保護法、老人福祉法、児童福祉法
12	他の医療関係者に関する法律(1) 歯科医師法、保健師助産師看護師法、診療放射線技師法、臨床検査技師等法	12	(5)障害者基本法、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律
13	(2)理学療法士及び作業療法士法、視能訓練士法、言語聴覚士法、臨床工学技士法	13	(6)身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、発達障害者支援法
14	(3)義肢装具士法、救急救命士法、歯科衛生士法、歯科技工士法、柔道整復師法 医師と他の医療関係者の業務の関係、名称独占と業務独占	14	個人情報保護法
◆	前期試験(試験監督は教職員・専任教員)	◆	後期試験(試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検	15	評価点検

評価方法	前期、後期の筆記試験による評価。前期試験は、記述問題と選択問題、後期試験は、国家試験に準じた選択問題とする。
授業の進め方	講義方式。医療六法の条文を読み理解する。
注意 (学生に望むこと)	授業中の私語は厳禁とする。基本的なマナーを守ること。
テキスト・参考書	必要に応じて、レジュメを配布する。 医療六法令和7年版(必携) 前田和彦監修 関係法規 医歯薬出版

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	宮田 正則 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年A組
科目名	按摩マッサージ指圧臨床実技	曜日・時間	水曜日 9:00～

【授業概要・目標】

実技に多くの時間使いたい。教科書その他、プリントも活用する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション 治療概論
2	各疾患の治療法(腰下肢痛)①
3	各疾患の治療法(腰下肢痛)②
4	各疾患の治療法(膝痛)
5	各疾患の治療法(肩こり・頸肩腕痛)
6	各疾患の治療法(肩関節痛・上肢痛)
7	各疾患の治療法(頭痛)
8	各疾患の治療法(顔面痛・顔面麻痺)
9	各疾患の治療法(眼性疲労)
10	各疾患の治療法(鼻閉・鼻汁)
11	各疾患の治療法(めまい・耳鳴りと難聴)
12	各疾患の治療法(咳嗽・喘息・喘鳴)
13	各疾患の治療法(再度行いたい施術を練習)
14	実技試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	各疾患の治療法(胸痛・腹痛)
2	スポーツ医学におけるあま指療法①
3	スポーツ医学におけるあま指療法②
4	老年医学におけるあま指療法)
5	各疾患の治療法(運動麻痺)
6	各疾患の治療法(高血圧症・低血圧症)
7	各疾患の治療法(食欲不振・悪心嘔吐)
8	各疾患の治療法(便秘と下痢)
9	各疾患の治療法(月経異常・排尿障害)
10	各疾患の治療法(のぼせと冷え)
11	各疾患の治療法(不眠・疲労と倦怠)
12	各疾患の治療法(小児の症状)
13	各疾患の治療法(再度行いたい施術を練習)
14	実技試験
15	評価点検

評価方法	出席、授業態度及び実技試験の結果により総合的に判断
授業の進め方	実技中心とする。一方的にならず対話形式で行う
注意 (学生に望むこと)	反復練習
テキスト・参考書	東洋医学臨床論(あん摩マッサージ指圧編)

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	渡部 正司 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年A組
科目名	鍼灸臨床実技Ⅱ	曜日・時間	水曜日 10:40～

【授業概要・目標】

東洋医学臨床論(はりきゅう編)の東洋医学的臨床実技編であり、基礎応用力を身につける。東洋医学に基づく病態把握から病因病機を理解し、治療方針を導く臨床力を国家試験に符合させて習得する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	ガイダンス	1	肝系統の症候治療
2	肝系統の症候治療	2	肝系統の症候治療
3	肝系統の症候治療	3	心系統の症候治療
4	心系統の症候治療	4	心系統の症候治療
5	心系統の症候治療	5	脾系統の症候治療
6	脾系統の症候治療	6	脾系統の症候治療
7	脾系統の症候治療	7	肺系統の症候治療
8	肺系統の症候治療	8	肺系統の症候治療
9	肺系統の症候治療	9	腎系統の症候治療
10	腎系統の症候治療	10	腎系統の症候治療
11	腎系統の症候治療	11	全身・女性・小児・老年・その他症候治療
12	臓腑全般の症候治療	12	全身・女性・小児・老年・その他症候治療
13	筆記試験	13	筆記試験試験
14	臓腑全般の症候治療	14	全身・女性・小児・老年・その他症候治療
15	評価点検	15	評価点検

評価方法	筆記試験と実技能力の総合評価
授業の進め方	東洋医学臨床論(はりきゅう編)を学生同士の演習にて学習強化する。
注意 (学生に望むこと)	鍼灸臨床は、東洋医学概論および東洋医学臨床論(はりきゅう編)を基礎にして臨床力を身につけるため、当該教科の復習を重ねて、臨床に活かして下さい。
テキスト・参考書	東洋療法学校協会編. 新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編) 第3版. 南江堂, 2022 東洋療法学校協会編. 新版 東洋医学概論. 医道の日本, 2023

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	専任教員 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	臨床実習Ⅳ	曜日・時間	水・金曜日 3・4時限

【授業概要・目標】

①患者と適切なコミュニケーションがとれる。②施術準備(補助)ができる。③基本的な事項について診療録に記載ができる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	臨床実習前授業(Ⅰ)
2	臨床実習前授業(Ⅱ)
3	臨床実習(1)
4	臨床実習(2)
5	臨床実習(3)
6	臨床実習(4)
7	臨床実習(5)
8	臨床実習(6)
9	臨床実習(7)
10	臨床実習(8)
11	臨床実習(9)
12	臨床実習(10)
13	臨床実習(11)
14	臨床実習(12)
◆	—
15	臨床実習(13)

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	臨床実習(14)
2	臨床実習(15)
3	臨床実習(16)
4	臨床実習(17)
5	臨床実習(18)
6	臨床実習(19)
7	臨床実習(20)
8	臨床実習(21)
9	臨床実習(22)
10	臨床実習(23)
11	—
12	—
13	—
14	—
◆	—
15	—

評価方法	知識の習得・身だしなみ・参加意欲などを総合的に評価する。
授業の進め方	臨床に必要な知識の習得、施術見学、環境整備、施術準備(補助)などを中心に行う。
注意 (学生に望むこと)	積極的に実習に参加してもらいたい。
テキスト・参考書	なし

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	伊東 太郎 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	東洋医学応用概論	曜日・時間	木曜日 9:00～

【授業概要・目標】

前期:2学年までに修得した科目について、要点を確認し鍼灸臨床に応用できるようになる。

後期:あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として必要な基本的知識の要点を確認し、総合的な判断ができるようになる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	基礎分野の要点確認(1) 医療概論、衛生学・公衆衛生学 1/2
3	基礎分野の要点確認(2) 医療概論、衛生学・公衆衛生学 2/2
4	基礎分野の要点確認(3) 解剖学 1/3
5	基礎分野の要点確認(4) 解剖学 2/3
6	基礎分野の要点確認(5) 解剖学 3/3
7	基礎分野の要点確認(6) 生理学 1/3
8	基礎分野の要点確認(7) 生理学 2/3
9	基礎分野の要点確認(8) 生理学 3/3
10	基礎分野の要点確認(9) 病理学概論 1/2
11	基礎分野の要点確認(10) 病理学概論 2/2
12	専門基礎分野の要点確認(1) 臨床医学総論1/2
13	専門基礎分野の要点確認(2) 臨床医学総論2/2
14	前期復習
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検 前期復習(2)

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	専門分野の要点確認(1) 東洋医学概論 1/4
2	専門分野の要点確認(2) 東洋医学概論 2/4
3	専門分野の要点確認(3) 東洋医学概論 3/4
4	専門分野の要点確認(4) 東洋医学概論 4/4
5	専門分野の要点確認(5) 経絡経穴概論 1/4
6	専門分野の要点確認(6) 経絡経穴概論 2/4
7	専門分野の要点確認(7) 経絡経穴概論 3/4
8	専門分野の要点確認(8) 経絡経穴概論 4/4
9	基礎分野の要点確認(1) 臨床医学各論 1/5
10	基礎分野の要点確認(2) 臨床医学各論 2/5
11	基礎分野の要点確認(3) 臨床医学各論 3/5
12	基礎分野の要点確認(4) 臨床医学各論 4/5
13	基礎分野の要点確認(5) 臨床医学各論 5/5
14	後期復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検 基礎・専門基礎分野の要点確認(15)

評価方法	定期試験の結果をもってその学期の評価とする。
授業の進め方	問題演習を中心として行う。
注意 (学生に望むこと)	復習(曖昧な記憶を教科書で補完すること)を効率的に行って欲しい。
テキスト・参考書	各科目の教科書

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	渡部 正司 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	鍼灸理論 I	曜日・時間	木曜日 10:40～

【授業概要・目標】

国試レベルの基礎応用と対応力を身につける。また、これまでの研究で明らかになっていることを紹介し、「鎮痛」を通して鍼灸の治効機序を学習していく。鍼灸の治効機序についてメディカルスタッフと議論できることを目標とする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	第1章 概論(エビデンス 他)
2	第1章 概論 経絡・経穴の基礎研究
3	第1章 概論 鍼灸施術の定義・鍼灸治療の特徴
4	第2章 鍼の基礎知識 用具・古代九鍼 第3章 刺鍼の方式と術式
5	第4章 特殊鍼法
6	第5章 灸の基礎知識 第6章 灸術の種類
7	第7章 リスク管理
8	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識:はじめに-治療的作用・学説
9	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識:はじめに-学説・経絡
10	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識:生体の調節-軸索反射
11	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識:生体の調節-運動系の調節 反射
12	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識:生体の調節-運動系の調節 I b抑制
13	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識:生体の調節-内臓系の調節 上脊髄
14	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識:生体の調節-内臓系の調節
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識:感覚 体性感覚 ホリモーダル受容器
2	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識:感覚 体性感覚 鍼通電
3	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識:感覚 体性感覚 痛覚
4	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識:感覚 体性感覚 温度覚 触覚他
5	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識:感覚 熱傷(炎症) 生体防御
6	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識:感覚 体表の反応 トリガーポイント
7	第9章 鍼灸治効機序:鍼鎮痛 内因性痛覚抑制系 全身性鎮痛 ストレス誘発鎮痛
8	第9章 鍼灸治効機序:鍼鎮痛 内因性痛覚抑制系 全身性鎮痛 下行性痛覚抑制
9	第9章 鍼灸治効機序:鍼鎮痛 内因性痛覚抑制系 全身性鎮痛 内因性オピオイド/DNIC
10	第9章 鍼灸治効機序:鍼鎮痛 内因性痛覚抑制系 脊髄分節性鎮痛
11	第9章 鍼灸治効機序:鍼鎮痛 末梢性鎮痛/個人差
12	第9章 鍼灸治効機序:循環系/運動系
13	第9章 鍼灸治効機序:消化器系/泌尿器系他
14	第10章 鍼灸治効機序と臨床の接点
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験、出席
授業の進め方	教科書を補足する資料を用いて解説する。
注意 (学生に望むこと)	鍼灸治効機序は、生理学が主体となっているため、生理学の復習を重ね、基礎を身につけて下さい。
テキスト・参考書	東洋療法学校協会編. はりきゅう理論 第3版. 医道の日本, 2021. 東洋療法学校協会編. 生理学 第3版. 医歯薬出版, 2014.

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	塚本 直太 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	東洋医学臨床Ⅲ	曜日・時間	木曜日 13:00～

【授業概要・目標】

前期:各論第1節「疼痛」の範囲より、腰下肢疾患の病態把握及び治療を理解する。

後期:各論第2節「臓腑と関連する症候」・第4節「その他の疾患」・第7節「老年特有の症候」について理解する。該当範囲が修了したら国家試験の対策授業とする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	P127 第1節 腰下肢痛-①
2	P127 第1節 腰下肢痛-②
3	P136 第1節 腰痛-①
4	P136 第1節 腰痛-②
5	P146 第1節 下肢痛-①
6	P146 第1節 下肢痛-②
7	P154 第1節 膝痛-①
8	P154 第1節 膝痛-②
9	P164 第1節 胸痛-①
10	P164 第1節 胸痛-②
11	P170 第1節 腹痛-①
12	P170 第1節 腹痛-②
13	前期小テスト①
14	前期小テスト②
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	P405 第4節 顔面麻痺
2	P413 第4節 歩行異常
3	P422 第4節 口渇
4	P432 第4節 出血傾向
5	P529 第7節 老年特有の症候
6	国家試験対策問題Ⅰ
7	国家試験対策問題Ⅱ
8	国家試験対策問題Ⅲ
9	国家試験対策問題Ⅳ
10	国家試験対策問題Ⅴ
11	国家試験対策問題Ⅵ
12	国家試験対策問題Ⅶ
13	国家試験対策問題Ⅷ
14	後期復習 小テスト③
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験で評価する。定期試験の結果が及第点未満の者に対しては小テストの結果を加味する。
授業の進め方	教科書に沿った内容で講義を進める。
注意 (学生に望むこと)	自ら学ぶ姿勢を身につけてほしい。
テキスト・参考書	新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	吉本 豊 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	リハビリテーション医学	曜日・時間	木曜日 14:40～

【授業概要・目標】

リハビリテーションの概念を身につけ、障害をもった方への接し方を考える。また、各障害の理解を通して鍼灸治療効果の可能性を幅広く考察できるように導く。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション (リハビリと鍼灸治療)
2	リハ概要 1～2
3	リハ概要 3～5
4	医学リハの概要 1～2～3
5	障害の評価 1～2
6	障害の評価 3～4～5～6
7	障害の評価 7～8～9
8	医学的リハ 1～2
9	医学的リハ 3～4～5
10	医学的リハ 6～7～8
11	運動学基礎 1～2～3 8～9
12	前期復習
13	前期復習
14	試験準備
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	脳卒中 1
2	脳卒中 2
3	脊髄損傷
4	切断リハ
5	小児リハ
6	骨・関節 1
7	骨・関節 2
8	末梢神経麻痺
9	リウマチ・パーキンソン
10	呼吸器疾患
11	心疾患・高齢者リハ
12	後期復習
13	後期復習
14	試験準備
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	知識と理解を文章で表現できるか？
授業の進め方	コーチングテクニックを用いて授業に望み、理解を深めるために障害体験をさせる。
注意 (学生に望むこと)	自分で考え、発想し、決断し、修正できるように！！
テキスト・参考書	教科書「リハビリテーション医学」

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	糟谷 俊彦 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	按摩マッサージ指圧理論	曜日・時間	金曜日 9:00～

【授業概要・目標】

手技に関する理論、研究による理論、その他の手技療法などを知る。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	あま指の意義と沿革など
2	あま指の意義と沿革など
3	基本手技の作用など
4	基本手技の作用など
5	生体作用の機転
6	循環系に及ぼす作用
7	神経系に及ぼす作用
8	皮膚、関節、呼吸器等に及ぼす作用
9	あま指の治療効果
10	あま指の治療効果
11	あま指の応用分野
12	あま指の応用分野
13	あま指の治療理論
14	あま指の治療理論その他
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	内臓一体表反射
2	レイリー現象、サイバネティクス
3	ゲートコントロールセオリー、 脳内モルヒネ
4	圧反射、反応の逆転現象
5	古法按摩
6	按摩手引
7	カイロプラクティック、オステオパシー、 スポンディロセラピー
8	その他の手技療法
9	その他の手技療法
10	その他の手技療法
11	スポーツマッサージの研究
12	スポーツマッサージの研究
13	遅発性筋痛に対する手技療法の効果など
14	手技療法が自律神経機能へ及ぼす影響など
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	筆記試験・・・65点以上合格
授業の進め方	座学
注意 (学生に望むこと)	手技に関する理論などを理解する
テキスト・参考書	あん摩マッサージ指圧理論、その他

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	古川 雄一郎 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	臨床医学各論Ⅱ	曜日・時間	金曜日 10:40～

【授業概要・目標】

- ①疾患を理解し図解できるようになる
- ②国家試験に対応できるようになる

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	神経疾患①
2	神経疾患②
3	神経疾患③
4	神経疾患④
5	神経疾患⑤
6	整形外科疾患①
7	整形外科疾患②
8	整形外科疾患③
9	整形外科疾患④
10	整形外科疾患⑤
11	リウマチ性疾患・膠原病①
12	リウマチ性疾患・膠原病②
13	リウマチ性疾患・膠原病③
14	リウマチ性疾患・膠原病④
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	その他の領域①
2	その他の領域②
3	その他の領域③
4	その他の領域④
5	その他の領域⑤
6	その他の領域⑥
7	その他の領域⑦
8	臨床医学各論 国試演習①
9	臨床医学各論 国試演習②
10	臨床医学各論 国試演習③
11	臨床医学各論 国試演習④
12	臨床医学各論 国試演習⑤
13	臨床医学各論 国試演習⑥
14	臨床医学各論 国試演習⑦
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	前期:筆記試験による、後期:筆記試験による その他:出席状況、授業態度なども考慮する
授業の進め方	教科書に基づいてプリントで進めるが、学習状況により内容が前後したり、変更したりすることがある
注意 (学生に望むこと)	①復習は必ずすること ②課題は提出期限を守ること ③解剖学や生理学の学習内容を復習しておくこと。
テキスト・参考書	『臨床医学各論』(東洋療法学校協会編)

科 目 名	学 年	授 業 時間数	教 員 名	実務 経験	業 務 内 容
運動学	2	60	吉本 豊	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
病理学概論	2	60	伊東 太郎	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
臨床医学総論	2	60	煙山 貴之	20年以上	治療院での勤務経験を持ち、現在も治療院で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
臨床医学各論Ⅰ	2	60	高橋 はるか	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
東洋医学各論Ⅰ	2	60	神成 有己	5年以上	治療院で勤務した経験を持ち、現在も治療院で柔道整復、鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
臨床経穴論	2	60	柏倉 利一	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も治療院で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
東洋療法診断法Ⅰ	2	60	三保 翔平	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
東洋療法診断法Ⅱ	2	30	神成 有己	5年以上	治療院で勤務した経験を持ち、現在も治療院で柔道整復、鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
按摩マッサージ指圧応用実技Ⅰ	2	60	山田 秀一郎	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も治療院で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
			柏倉 利一	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も治療院で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
按摩マッサージ指圧応用実技Ⅱ	2	60	武藤 永治	30年以上	治療院を開業した経験を持つ。
按摩マッサージ指圧応用実技Ⅲ	2	60	佐藤 光恵	5年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も治療院で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
鍼灸応用実技Ⅰ	2	60	三保 翔平	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
			吉本 豊	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
鍼灸応用実技Ⅱ	2	60	今野 弘務	10年以上	治療院に勤務した経験を持ち、現在も治療院で鍼灸、柔道整復の臨床をおこなっている。
			古川 雄一郎	10年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
臨床実習Ⅱ	2	45	長岡 靖彦	20年以上	病院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
			高橋 はるか	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
臨床実習Ⅲ	2	45	三保 翔平	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
			長岡 靖彦	20年以上	病院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
臨床医学各論Ⅱ	3	60	古川 雄一郎	10年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
リハビリテーション医学	3	60	吉本 豊	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
按摩マッサージ指圧理論	3	60	糟谷 俊彦	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も治療院で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
鍼灸理論Ⅰ	3	60	渡部 正司	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も治療院で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
鍼灸理論Ⅱ	3	30	伊東 太郎	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
東洋医学各論Ⅱ	3	60	浦山 久嗣	30年以上	治療院を開業した経験を持つ。
東洋医学臨床論Ⅰ	3	60	神成 有己	5年以上	治療院で勤務した経験を持ち、現在も治療院で柔道整復、鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
東洋医学臨床論Ⅱ	3	60	川嶋 睦子	20年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
東洋医学臨床論Ⅲ	3	60	塚本 直太	10年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
東洋医学応用概論	3	60	伊東 太郎	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
按摩マッサージ指圧臨床実技	3	60	宮田 正則	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も治療院で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
鍼灸臨床実技Ⅰ	3	60	国分 壮一	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
鍼灸臨床実技Ⅱ	3	60	渡部 正司	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も治療院で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
			塚本 直太	10年以上	治療院で勤務したを持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
鍼灸臨床実技Ⅲ	3	60	浦山 久嗣	30年以上	治療院を開業した経験を持つ。
			三保 翔平	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
臨床実習Ⅳ	3	45	高橋 武彦	20年以上	病院、治療院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
			伊東 太郎	10年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸の臨床をおこなっている。
合計		1695			